

建設中の福岡県朝倉の「山田堰モデル」。模型を元にできるだけ形状と機能を再現しようとするもの。ただし、砂吐の位置と洪水吐（舟通し）などは、地形上そのまますべて設置できない。堰幅約 200m、堰長 60－120m、落差約 2m、これまでの堰の中では完成度が高い。



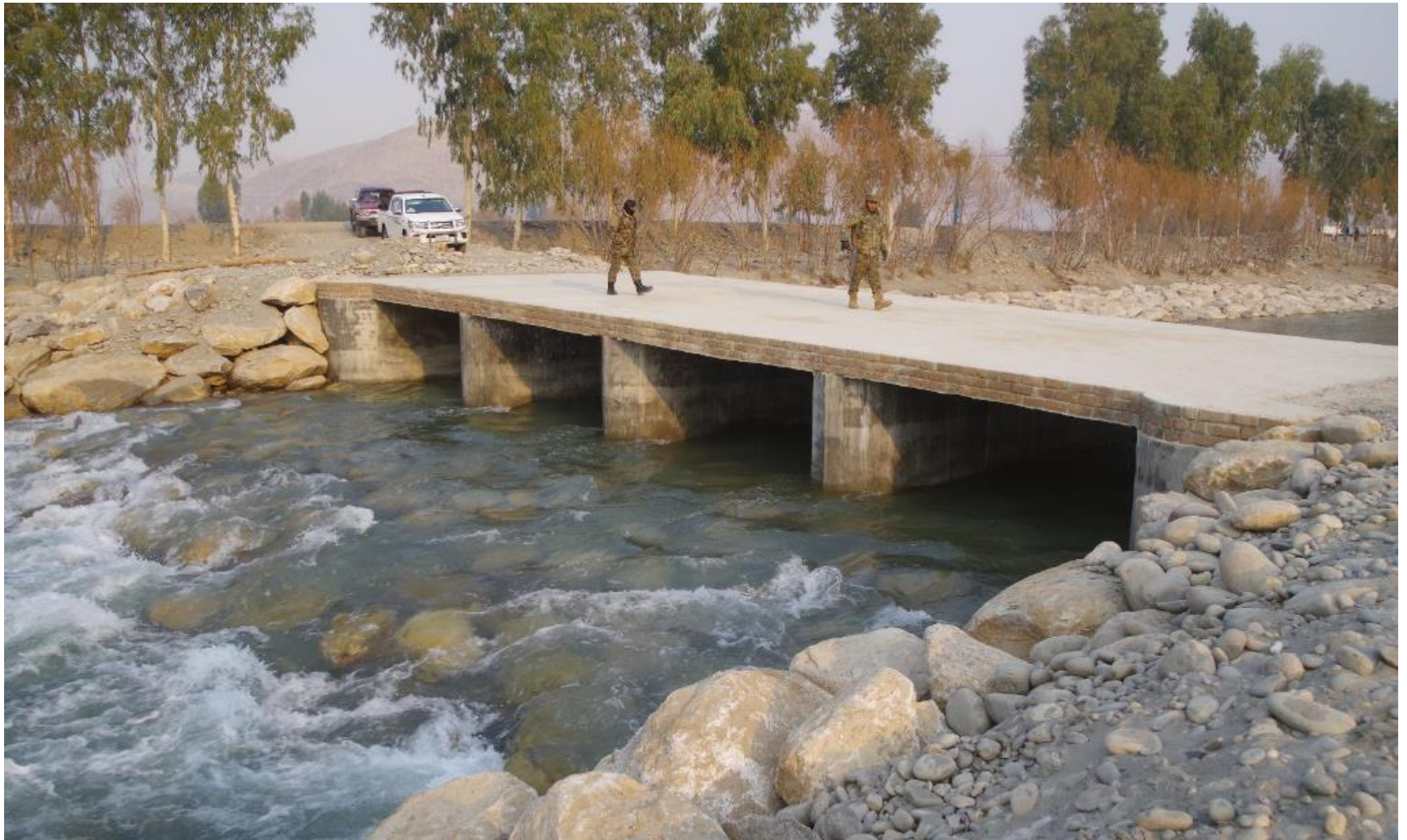


開放された河道ⅡB（分流）。交通路確保のため、対岸中洲への架橋が焦点の一つとなっていた。2018年1月23日





橋は純粹に工事用の交通路で、冬季のためだけに使う。夏は水没する。水理学的には、分流の水量を十分に確保して、カマ第二堰を通過する水量を抑え、堰の保護に役立てるもの。2018年1月23日





カマ第二堰取水門を工事中の堰から見る。2018 年 1 月 25 日



堰体の工事風景を下流側から見る。2018 年 1 月 25 日





水門側壁の再建。外見に反して、籠はコンクリートで固められていたが、今回は基礎が不動になったので不安がなくなる。

